

## 『つみころの段ボールや!』 5歳児 2月 伏見こども園

### エピソード

生活発表会の翌週、Aくんが「ロボットの転がしやってもいい?」とお話遊びで使っていた道具を持ってきました。その様子を見た友達もやってきて転がし遊びが始まりました。Aくん「ロッカーからまっすぐつなげよう」とロッカーに転がしの段ボールを載せ出すと、何も言わずに周りの子が椅子を段ボールの下に入れ、土台をつくり始めました。椅子だけでは段ボールが折れて思うような角度になりません。すると「つみころの段ボールや!」と思いつき、数人でつみころに使っていた段ボールを取りに行き、転がす角度を考えながら土台にしていきました。新聞紙ボールを転がしながら「ここがまっすぐや」「ここで止まってる」「ガムテープで留めた方がいいんじゃない?」と気付いたことや考えを伝えていました。その中で「もうちょっと土台がいるな」「つみころの赤と青があと1個ずつかな」「わかった。取ってくるわ」「ここにはカプラの箱を載せたらいいはず」と土台を安定させようと考え、コースの各所に置いていきました。転がしのゴールとして置いていた段ボール箱にコースの端を載せてみると、最後の端が上りになってしまい、ボールが転がっていきませんでした。「これ(土台のつみころの段ボール)も斜めにしたらいいんや」と、土台を斜めに置くことで、コースも角度が付き、ゴールまで転がっていくようになり「やったー!」「入った!」と喜び、何度もボールを転がしたり、コースが崩れると作り直したりしながら繰り返し楽しんでいました。

### 子どもの育ちや学び



つみころの段ボールを置いてみよう(ひらめき)



まっすぐだから?(推測)

青がちょうどいいはず(予想)



テープで留める?(提案)

土台も斜めにしてみよう(発想の転換)(試す)



やったー!入った!(喜び)

- ・友達がコースを置き始めた様子を見て、必要なことや自分にできることを考え、土台になりそうなものを置く。
- ・これまでの経験から転がしには角度が大切だということが分かり、角度をつけるための土台を考える。
- ・つみころの段ボールの色ごとの大きさ、高さなどが分かり、角度をつけるために必要な色、数を考えて持って来る。
- ・土台=安定という考えから、土台を斜めにしてみようという新たな発想を試す。
- ・友達の気づきや考えを受け入れながら、共通の目的に向かって協力したり役割分担をしたりする。

### 保育者の思い

- ・転がし遊びが好きなAくんから始まった遊びでしたが、お話遊びで使っていたものだったこともあり、いつもは転がし遊びに参加していない子達も加わりだしたので、どんな風に遊びが進んでいくのかな、と楽しみに見守っていました。
- ・転がしの角度、土台づくりに必要なことをそれぞれが考えてしている行動が、結びついていってる様子が、これまでの遊びの経験が共有できているからかなと思いました。
- ・つみころの段ボールを持って運んだり遊びで使ったりする中で、体の感覚で大きさや高さが分かっていたのか、必要な色と数を指定して持ってこようとするのがすごいな、と思いました。
- ・運動遊び参観、生活発表会、遊び、で『もの』と『経験』が子ども達の中でつながり、活かされているんだなと感じました。

### 家庭だったら

子ども達の中で、行事や遊びの経験は別ではなく、すべてつながっていて、経験を活かそうとする力が育っています。今経験していることが、小学校以降でつながることもたくさんあると思います。この行動はあのとときの経験から…?と感じることもあるかもしれませんね。